

アンケートによる屋外子育てバリアの現状調査と提言

長崎大学工学部 学生会員 ○大平 達朗 長崎大学大学院 学生会員 利根 佳享
長崎大学大学院 正会員 後藤恵之輔

1.はじめに

近年、全国的に少子化が進行しており、長崎県においてもそれは例外ではない。長崎県において、1人の女性が一生の間に生む子どもの数の概念上の計算値である合計特殊出生率は、低下の一途をたどり、平成14年には、人口を維持するのに必要な2.08を大幅に下回る1.48(全国1.32)となっている¹⁾。よってこの少子化の波を食い止めるための対策が必要となる。

本研究では、少子化の原因の1つとして子育てに対する負担感があると考え、現在子育てをしている保護者の方を対象としてアンケート調査を行い、子連れで外出する際に不便だと感じること(バリア)を調査し、子育てに対する負担感を減らす環境の整備を考察することを目的としている。

2.調査概要

本調査では商業施設の現状を知り、今後の課題を考えるため、現在長崎市の保育園で0～2歳までの子どもを預けている保護者を対象にアンケート調査を行った。調査項目は、屋外の中で特に商業施設に子連れで外出する際に感じる不便なこと、一時預かり施設についての考えなどである。全体で429部を配布、317部を回収し、回収率73.9%となった。

3.アンケート調査の分析結果と考察

(1)子連れで商業施設に外出することについて

図-1は「あなたは子連れで商業施設に外出する際に不便だと感じることはありませんか」という問いに対しての回答を集計したものである。不便だと感じる人が60%おり、感じない人の17%を大きく上回っている。不便だと感じる理由として「トイレの整備がされていない」や「子どもとの食事に配慮された場所が無い」、「子どもを安心して遊ばせることが出来ない」、「商業施設において一時預かり施設が無い」などを挙げている。これらのことが挙げられた理由として、長崎市の子育てを考えた環境整備の不備と、犯罪や事故の増加などが考えられる。

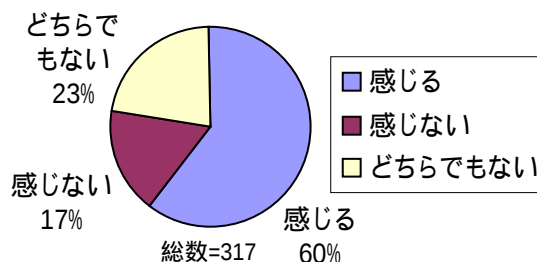


図-1 子連れで商業施設へ外出する際の不便さ

(2)ベビーカーで商業施設に外出することについて

図-2は「あなたが子どもをベビーカーに乗せて商業施設に外出した際に、不便だと感じたことは何ですか」という問いに対しての回答を集計したものである。主なものとして「ベビーカーで入れるトイレが無い、または少ない」や「通路が狭い」、「エレベーターの中が狭い」、「エレベーターが無い、または少ない」が挙げられた。特にエレベーターが狭いことに関して、ベビーカーで

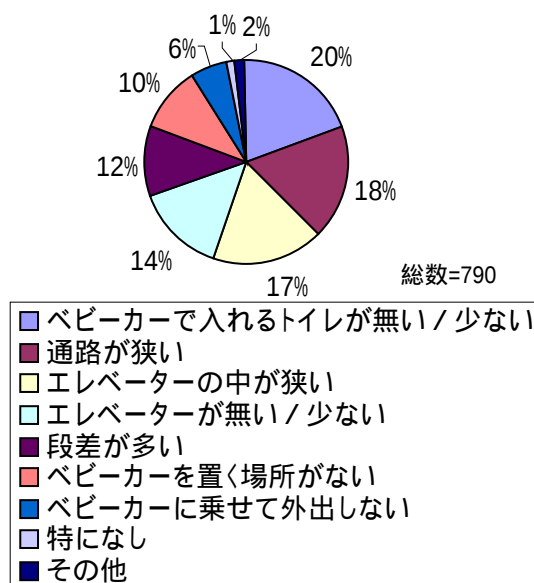


図-2 商業施設でベビーカーを利用して困ったこと

は幅を取るため他の人に遠慮してエレベーターに乗れないという意見も多くあった。この改善策として、ベビーカー優先エレベーターの整備や周囲の人の気配りを促すような張り紙を張ることなどが考えられる。

(3)商業施設におけるトイレの整備について

図-3 は「商業施設に外出の際に、自分のトイレや子どものトイレで困ったことは何ですか」という問に対しての回答を集計したものである。主なものとして「子ども用便座が無い」や「トイレが狭い」、「ベビーカーで入れない」、「ベビーキープなどが無い、または少ない」が挙げられた。これらより、トイレ内の設備がまだ整っていないことや、スペースの問題があると考えられるのでこれを改善する必要がある。

(4)一時預かり施設について

図-4 は「あなたは子どもの一時預かり施設を利用したことがある、または利用したいと思いますか」という問に対しての回答を集計したものである。利用したことがない、または利用したくないという人が 75%を占めた。このように考える理由として「一時預かり施設がどのような所かよくわからない」や「子どもと一緒にいたい」、「一時預かり施設の場所がわからない」などが挙げられた。一時預かり施設の内容や場所がわからないという意見があったことより、それを示すことで施設の利用者も増え、外出する際の不便さを減らすことが出来るのではないかと考えられる。

(5)全体的に見た商業施設について

図-5 は「現在の商業施設に満足していますか」という問に対しての回答を集計したものである。結果として満足していない人が 65%を占めた。理由として商業施設内の整備の不備と、犯罪や事故対策の不充実が挙げられた。

4.おわりに

今回のアンケート調査によって明らかになった問題点は、(1)長崎市内の商業施設においてはトイレやエレベーターなど施設内の整備がまだまだなされていない、そして、(2)子どもを安心して連れて来ることが出来ないという 2 点である。この 2 点を整備し、それを利用者にわかるように知らせることが必要である。さらに、一時預かり施設のことを良くわからないから利用しないという人もいることから、施設数を増やし、内容を明らかにすれば利用者も増え、外出した際の不便さを減らすことが出来るのではないかと考えられる。これらのようなハード面の整備を行うと共に、子育てに対する意識などのソフト面からの改善も子育ての負担感を減らす環境の整備には必要である。

参考文献

1) 長崎県ホームページ : <http://www.pref.nagasaki.jp/>

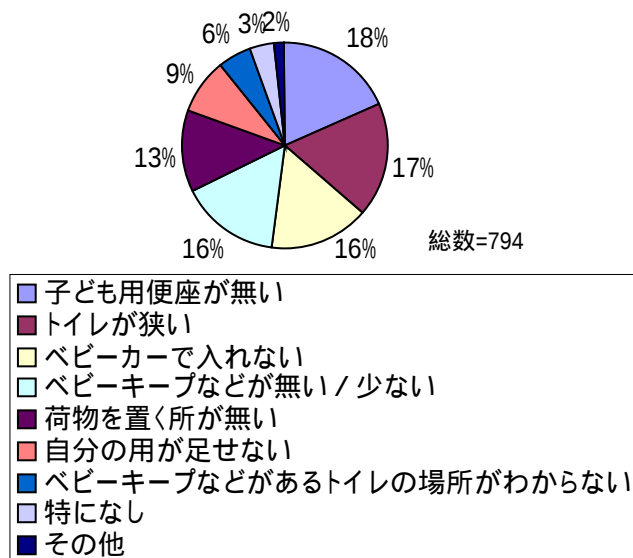


図-3 商業施設のトイレで困ったこと

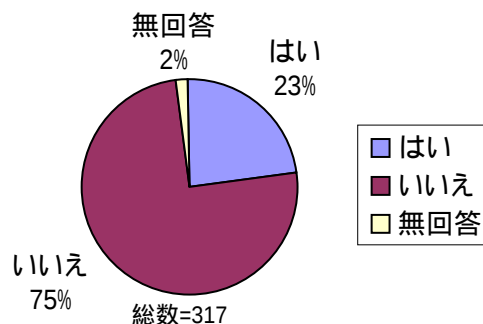


図-4 一時預かり施設の利用

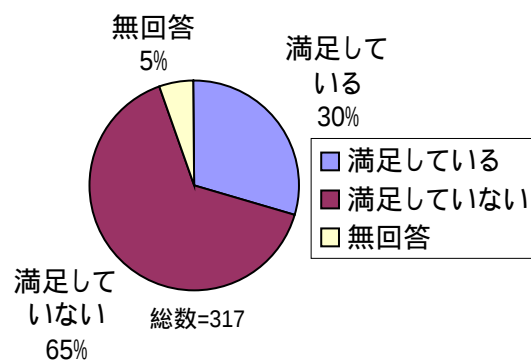


図-5 商業施設への満足度